

刊夕 日八廿月十

# 常警日新聞

定価一圓(一ヶ月五圓)郵費五圓  
 廣告料五圓(十二字)行金五圓  
 日曜日の翌日休刊  
 発行所 常警日新聞社  
 印刷所 常警日新聞社

## 市制實施の概要

六、産業道路の完備に付ては都市計畫法の補助制あるも市財政の許す範圍にあらざれば即時一舉に完成することは困難であります。別紙起債償還表の如く三年後は多大の剩餘金生し相當道路改善等に流用し得べし、亦半窪村が併合の曉は、教育費を除くの外従來村費に要したる人件費其他の經費が二重に要せざることもなり之等の費用を道路費に振り向けることも取て不可能にあらずと考へらる。蓋し併合の目的は前述の如く種々の理由存すれども結局二を一に併せ強大なる力を活用し自治の進展を期する所以であります。

是を要するに何れかの点より検討し考究するも、市を實施すれば兩町村とも利益こそあれ不利と見るべきもの絶對に見えざる處である。俗事に千軒共暮しと謂ふ語あり畢竟強大なる自治の建設は共案共存を如實に物語るものであります。賢明なる平窪村民各位高所大所に立脚し市制實現のため共助せられんことを熱望し止まざる處であります。

## 人生は捨石である

眞 繼 雲 山

可愛い子猫に首輪を付けてやりつゝ小娘は曰ふ『可愛さうにこの小猫の財産は首輪だけしか無いのです』と。では人間は幾許の財産を持ち得るのであらう乎。金殿玉樓といふといへども眺め棲む以上に食ふことは出来ず、山海の珍味といふといへども満腹以上用はない。

○明日の献立  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

【朝】味噌汁・葱 小皿  
 やきのり  
 【晝】照り煮 切りいか 小井 柚子味噌  
 【晩】コロッケ(馬鈴薯と たゞき豚肉、玉葱) ウスターソース 清汁・流し玉子



## 提燈のふかき

その永生を無量壽國、彌陀の淨土と知るべきである。但しこれは西方十萬億刹の諸にはあらず、生死の壁を徹すれば、淨土は脚下に展開する。身を削るとは奉仕であり犠牲性である。犠牲奉仕といへば大損のやうに思ふ人もあるが、學者の學問を生かすも人のためであり労働者の大地を堀るも人のためである。人のために盡すこと以外に生きる道はない。

い。たゞその善惡如何と問ふべく、盡して求めざるを至高とする。至高なるものは捨石であり、皇國日本は捨石が盛上つたものである。身を削りて闇を照らす蠟燭は所得なくして本然の使命を果たす。そこに蠟燭の命がある。人にして蠟燭に如かざらんや。

道途、餓虎の如く求むること激しいへども、持ち得ることを猫の首輪といづれる乎。人を渡すところに渡し守の命がある。これを菩薩道といふ。人生は捨石であれ、蠟燭であれ、これを逆にして燃えずに積み上げるとも白骨入では堪へなきことである。

## 喜多流謠曲と仕舞の

お稽古をお奨め致します

喜多流 仕舞 白土會  
 平町田町六九  
 電話一二七番

## つばね

平町才植小路  
 大河内接骨院  
 電五八八

## 品自慢と 正直な値段

自轉車・リヤカー  
 フタバ商會  
 新川町郵便局前

## 美味... 新鮮...

東京堂のパン  
 是非御試食を!  
 平橋樋小路  
 電一〇八番  
 徒弟入用

## 服洋冬の前の騰暴

◆賣特付賞懸◆

福永洋服店  
 末廣料理店前 電話二二八

新製秋紳士服御誂 御假縫付仕立入念奉仕!

感謝品景謝感  
 御注文一着毎に抽籤券進呈 (但し金額拾圓以上)

背廣三ツ揃	金二十圓より
オリーブ各種	金二十五圓より
モーニング	金四十五圓より
立衿	金二十圓より
二重廻一着	金二十七圓より
東コート一着	金十六圓より

特賣期日 九月十五日より 十二月三十一日まで  
 抽籤發表 昭和十二年一月十五日

## 高久病院

院長 醫學士 高久 忠  
 副院長 新潟醫學士 赤羽 清  
 藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄  
 平町田町 電話五二三番

内科小兒科 外科花柳病科  
 耳鼻咽喉科 レントゲン科

## かまぼこ

製造

## お茶屋

平町一丁目  
 電話一四一番

# 社告

## 大飛躍!

### 新活字を使用 内容は倍加す

多彩的な十三段制

## 紙面を改革

本社は社屋新築と共に設備の充實を遂げて各般の準備を完了愈よ來月二日から現在の舊式五號活字を全廢、ルビ付きの七ポイント及び九ポイントの新活字を使用して『二面十三段制』に紙面を改革致します。この體裁の整備に依つて掲載記事は現在より倍加する事になり、敏速、正確を誇る報導記事の外に、趣味、家庭、娛樂等に關する讀みもの、一欄を新設、多彩的に紙面の充實を圖り、更らに大犧牲を拂つて大衆文壇の巨匠を促し左記の如き二大珠玉篇を

愛國護れ太平洋の海 寺島恒史作  
小説 村瀬春映書

大衆小説 白柄劍風連 大島多慶夫作  
井川洗涯書

飾つて連載、名實共に市制途上に躍進せる郷土の機關紙として各位の座右に好伴侶たらしめます數日後に迫る此の本紙の飛躍振りに御期待を乞ふ次第であります

## 寒暖目狂し

されど當分は

## 好天氣を保證

平地方は去る二十日頃から急に温度が下つて一足飛びに寒くなり二十四日本年最初の降霜が地方民を驚かしたがそれ以來今度は一變に暖かくなりだし、昨日今日は最高二十三、四度と云ふ小春日和で例年の九月中旬

續くでせう。それは現在支那にある七七〇ミリと云ふ高氣壓が日本海を渡り本邦目掛けてやつてくるからです。又颶風の卵らしいものがヤップ島の附近に在りますがこれは僅か七五四ミリ臺で先づ々々心配はご無用!とあり、二三日中に幾分冷氣は來るが好い天氣は保證されてゐる

## 警中生の健康を

### 診護る事四十年

酒井先生の功績有難し

### 明治節に顯彰式

石城郡醫師會顧問南町酒井國三郎氏は明治廿九年警城中學校が創立の際校醫に就任、爾來星霜四十年の今日に至る迄、同校生徒の保健衛生に盡瘁し其の功績は甚大である處から謝恩の微意を

## 凄い蕃殖振りに

### 獵天狗意氣込む

永戸國營獵區を開放

### 静寂を破る銃聲

永戸村國營獵區は先年指定以來絶好の獵場として知られ、獵ハンターに注目されてゐるが平營林署では來月一日のキヂ、山鳥の開禁と同時に愈々開放、入場料一日三圓で獵天狗を歓迎することになった。同獵區にはキヂ九百羽、山鳥千六百羽が放たれてあり、順調には

## 總花的の公休日

營林署五十週年記念

來月十六日の營林署五十週年記念に際し齋藤平營林署長は永年勤業者として農林省から表彰されるが、尙同日は官公増林の夫人に總花的に記念品を贈り一日の公

## 覇を争ふ小力士

平第一校の相撲大會

## 体育週間に

平第一校は來る十一月一日からの體育週間の催として町内一周驛傳競走や校内競技及び球技大會を開催する

## 郡下兒童は歌ふ

卅一日平第一校講堂に

既報來る三十一日午前九時から平第一校講堂に催される郡下小學校兒童唱歌會は出演校二十二に及び獨唱合唱、唱遊、齊唱、湯本校職員のパイオロン獨奏等三十八種目の盛澤山、地元三小學校の出演種目は左の如くである

## 職業紹介事業の普及宣傳を試む

紹介週間と平紹介所

平職業紹介所では來月十日から一週間縣下全体に施行される「職業紹介週間」に際し地方に適した方法を以つて職業紹介事業の普及宣傳を行ふため左記各項目中何

## 機動演習の將士を迎へ

四倉町緊張

明二十九日から行はれる第二師團の機動演習に參加の若松二十九聯隊將兵千二百餘名が分宿する四倉町では役場並に軍入分會が主體となりその歓迎準備に忙殺されてゐるが聯隊旗及び聯隊

## 夏井川改修事務所移轉

製菓會社跡に

平町十五丁目町有地内夏井川改修事務所は過般の町有地賣却に依り移轉することになり他に敷地を物色中であつたが新敷地は同町新川河畔元平製菓會社、跡に決定來る三十一日平町佐々木建一郎氏請負で移轉する

## 根岸橋渡り初

野村下根岸地内下根岸橋は昨年の豪雨で流出、本年六月より工費一萬餘圓で架中であつたがこの程竣功、本二十八日午前十時から盛大に渡橋式を行つた、新橋は延長二十二米、幅員五米五のモダンコンクリート橋である

## 武道選手出發

平署武道選手は來る三十一日山形で開かれる東北六縣警察官武道大會に出場のため同三十日午前六時十五分平驛分署越線で出發する

## 平商野外演習

四年生約八十名は今二十八日好間方面で佐藤配屬將校及び麻原教官指導の下に野外演習を行つた

# 天勝一座が 無理強へ登場

## 観客はヤンヤの喝采

### スター嬢大縮尻の巻

昨夜天勝一座聚楽館のお名残り興行に観客は思はずの拾ひ物をしはぬ拾ひ物をしはぬ眼も絞な

# 山崎清三氏

それは相手の手の掌に乗せてある三枚の五十銭銀貨を、スターが布で巻き付けた右手を働かして一枚宛奪ひ取るといふ演技折柄、今では漸く健康を取り戻した警城聖人山崎與三郎翁が

観客席に姿を現はした、附添えの孝心深い山崎清三氏は翁の爲めに観るにも聴くにも都合の場所をとの心つかひから東側棧敷の下、舞臺に近く陣取つたものだ、其處へ花道からツカ／＼と歩み寄つたのはこれから「銀貨取り」の演技を演じやうとするスター嬢である、何か

押問答が あつて山崎清三氏がスターの右手に布切れをグル／＼と巻きつけ、是れは頼まれた同氏の親切氣からの事であつたらしいが事態は夫れだけで済まない、今度はスター嬢が

の喝采を送る、處がスター嬢何回か山崎氏の掌上の銀貨を取り損ねて失敗、辛ぶじて一枚は取れたもの、二枚目は舞臺に落ち、最後の三枚目に至つては氣を許さぬ山崎氏に機敏に握り締められるのでマンマと敗北！「御當地のお客様は、誠に御油断がならないので……」とか何とかの口上よろしくあつてどうやら其場のケリをつけたが夫れ丈では止まず、最後に山崎氏に固い握手でウエックを送つたので観客は再び大喜びワツと計りに場内が沸き立つた、是れは山崎氏だけに正に空前絶後の見せ場と云ふべきであらう

# 稲刈り男の目前に 降りた気球

## 氣象の観測に 飛行機から投下か？

渡邊村釜戸農若松信太郎（三）さんは二十六日朝自宅附近で稲刈り中ゴム製の風袋（氣球？）を發見した

右は三寸角のセルロイド函に「この器機拾得者はハガキに所要事項を記入の上投函されたし」と東京市牛込區陸軍砲兵學校の校名あるもので

早速植田署へ届け出たがこれは氣象観測に飛行機から落したものであるらしいと無免許空氣銃 湯本町三區居住入山炭礦雜夫本

今晩の部  
後六、〇〇 元童曲 清清  
元梅吉社中  
後六、二五 英語講座 佐藤劍之助  
後七、三〇 海軍の夕講 演「帝國海軍の現状」野田海軍少將  
旭日昇天の巴の子とその

曝かれた自稱社長  
高橋憲太郎の詐欺公判  
申立が曖昧で延期さる

入營兵に 豫習教育  
證書を交付  
平町では来月十日午前七時半から第一小學校講堂で本

逃げた博徒の親分 芝居見物中に捕る  
劇中平署小島駐在巡查に逮捕された、尚西條警部補係りて取調中の同賭博團一味三十餘名はこの程取調べ一段落を告げ愈々今明中に送検される

交通整理 御苦勞と  
自動車協會が 平少年團へ金一封  
平少年團は先般の交通安全デーに當り平署より出動を促がされ尋常五年の團員が本町通りの街頭に起つて交通整理に協力したが可憐なその働き振りは安全デーの彩りとして微笑しき一風景を描き交通者に好感を以つて迎へられ可成り効果が多かつたといふので此程自動車協會平支部は平署の手を通じ同團に金一封を寄附した

航空生を募集 逕信  
省航空局は陸海軍委託航空

今晩の部  
後八、〇〇 軍歌 大阪放送合唱團・桃谷中繼  
後八、一五 朗讀「勝つて兜の緒を締めよ」飯田海軍中將  
後八、二五 浪花節「櫻滅」東家樂燕  
後九、〇〇 ラヂオスケッチ「明朝海軍色」日本俳優學校劇團

入營兵に 豫習教育  
證書を交付  
平町では来月十日午前七時半から第一小學校講堂で本

逃げた博徒の親分 芝居見物中に捕る  
劇中平署小島駐在巡查に逮捕された、尚西條警部補係りて取調中の同賭博團一味三十餘名はこの程取調べ一段落を告げ愈々今明中に送検される

交通整理 御苦勞と  
自動車協會が 平少年團へ金一封  
平少年團は先般の交通安全デーに當り平署より出動を促がされ尋常五年の團員が本町通りの街頭に起つて交通整理に協力したが可憐なその働き振りは安全デーの彩りとして微笑しき一風景を描き交通者に好感を以つて迎へられ可成り効果が多かつたといふので此程自動車協會平支部は平署の手を通じ同團に金一封を寄附した

航空生を募集 逕信  
省航空局は陸海軍委託航空

今晩の部  
後九、三〇 時報  
明日の話 象通  
報 番組豫告  
明日の部  
後六、三〇 基佛語講座  
丸山順太郎  
前七、〇〇 朝の修養「山上の垂訓」村田四郎  
前七、一五 海軍特別大演習觀艦式御模倣 御召艦比叡及び六甲山麓岡本より中繼  
後八、〇〇 五講談「野野短隨」神田五山  
後八、三〇 國民歌謠「落葉松」堀田菊江

今晩の部  
後八、〇〇 軍歌 大阪放送合唱團・桃谷中繼  
後八、一五 朗讀「勝つて兜の緒を締めよ」飯田海軍中將  
後八、二五 浪花節「櫻滅」東家樂燕  
後九、〇〇 ラヂオスケッチ「明朝海軍色」日本俳優學校劇團

入營兵に 豫習教育  
證書を交付  
平町では来月十日午前七時半から第一小學校講堂で本

逃げた博徒の親分 芝居見物中に捕る  
劇中平署小島駐在巡查に逮捕された、尚西條警部補係りて取調中の同賭博團一味三十餘名はこの程取調べ一段落を告げ愈々今明中に送検される

交通整理 御苦勞と  
自動車協會が 平少年團へ金一封  
平少年團は先般の交通安全デーに當り平署より出動を促がされ尋常五年の團員が本町通りの街頭に起つて交通整理に協力したが可憐なその働き振りは安全デーの彩りとして微笑しき一風景を描き交通者に好感を以つて迎へられ可成り効果が多かつたといふので此程自動車協會平支部は平署の手を通じ同團に金一封を寄附した

航空生を募集 逕信  
省航空局は陸海軍委託航空

今晩の部  
後九、三〇 時報  
明日の話 象通  
報 番組豫告  
明日の部  
後六、三〇 基佛語講座  
丸山順太郎  
前七、〇〇 朝の修養「山上の垂訓」村田四郎  
前七、一五 海軍特別大演習觀艦式御模倣 御召艦比叡及び六甲山麓岡本より中繼  
後八、〇〇 五講談「野野短隨」神田五山  
後八、三〇 國民歌謠「落葉松」堀田菊江



# 流るる瓦解の心

(第百一十回) 悟道軒圓玉 (作) 丸尾至陽 (書)

## 二五六 幕軍敗走す

大島圭介君のひきぬる兵は官軍の爲めに散々に射ちたてられ有川の陣地をすて敗走する、この事を聞いて總裁榎本君は愛馬墨流に打ちまたがり、兵を引ぬて馳せつけたが、大浪の岩にあたつてくだけるがごとく幕軍はどつと敗走する、榎本君これを見て

と恥しめたが亂れたつたことゝ耳にも入れず、またす／＼敗走する、かくと見て得たりやおうと官軍は一層きびしく攻めたてる、榎本君は味方をはげまし兵をまとめむとしたが如何に總裁の威力なりともこれを盛りかへすことは出来ない折しも飛來つた彈丸は總裁の軍帽に命中したが幸ひに負傷はせぬ、また飛び來つた彈丸は軍帽をかす

めてそれた  
釜「彈丸が来たナ、しかし俺には彈丸が當らぬぞ、ンレ射て〜」  
といつて胸をたいたが奇たいなもので、彈丸の方



で遠慮してヒューヒューとあたまの上を飛んで行く。こゝで總裁はともこゝは恢復出來ぬと見て追撃する官軍を迫り拂ひ七重村まで引きあげた、すると二股口をかためてゐた土方歳三は有川がやぶれたと聞いて官軍のために退路を断ち切られてはこゝの兵は一人も助かるまい、よつて二股口を

すて、これまた五稜廓に引きあげた、總裁は一旦七重村まで来たがその敗兵にてこゝで戦ふことはなるまいと大島君と協議の上これまた函館まで引きあげた。官軍は勝ちに乘じて有川と七重村を占領した、この七重村は濱邊です、また官軍の一手は大川村に屯集して一時こゝで休戦した、さ大島君は有川のやぶれたは遺憾と五月の二日の夜に百五十人のを引いて大川村の官軍の屯所に夜討ちをかかけた、この時の戦ひには勝

利を得て大砲一門と十一人を捕虜にした、此の捕虜に砲を引かせて五稜廓に引きあげ  
大「イヤこれで溜飲がさがつかぞ、あゝい、心持だ、しかしこんなことでは先達への復讐をしたとはいへぬの、もう一度彼等に目にも見せてやらねばなるまい、まずそれまでは兵氣をやし

なつて」  
とこゝで祝盃をあげた、兵士も勇氣を回復しましたすると四日の朝の七時頃に官軍の軍艦甲鐵を先頭に以て五隻、函館灣に入り幕軍の辨天島の砲臺と、これにむる幕軍を攻撃した、その時にこの函館に居つた幕軍の軍艦回天、蟠龍、千代田の三艦が戦つたがその時の海戦はもつとも激しかったさうです、辨天島の砲臺から射ち出した彈丸が甲鐵のブリツチに命中してそれが砕けた、これがために甲鐵はじめ官軍の軍艦は根據地の當りまで引きあげた、幕軍はこの海戦に勝利を得たと喜んでゐたが、こゝに意外の椿事が出來た、それはどんなことだと申すに、幕軍の軍艦千代田がその夜辨天島の沖にて暗礁に乗りあげた、艦長森本弘策は大いに狼狽して敵艦の襲撃をうけては一大事、今のうちに上陸しろと機關を打ちくだき砲門をどさしまつさきに端艇をおろしてこれにて上陸なさむとする、それを見て副艦長の市川慎太郎が

な、敵の艦は目の届くところには一さうも見えませぬぞ」  
森「それは見えぬが當前だ今夜は頗る暗い、さアさ早く上陸しろ」  
と何うしたことが森本は艦にわかれて一刻も早く上陸せむとする。

店主が店員を連れ行	か	を	店
れる	れ	連	主
食	れ	れ	が
堂	る	て	店
茶	る	行	員
場	る		
正	正	正	正
シ	シ	シ	シ
イ	イ	イ	イ
酒	喫	食	食
場	茶	堂	堂

平・田町  
ラレストサロン  
電三五二番

**北川外科**  
平野新町  
長谷川北川若夫  
電話四六四

**吸入用酸素** 純度 99%  
体温計  
寒暖計  
重量計  
モノサシ  
マヌ  
ハカリ  
秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス

**関内藥局**  
電話四〇番  
銘仙の宣傳……  
●十月廿九日より十一月四日迄●  
足利 八王寺 一反毎に  
伊勢崎 秩父 新製風呂敷一枚

平三丁目  
**三井呉服店**  
電話三八二八四番  
今秋の新製品珍柄大量に取揃へました  
御召物は銘仙がお徳用日常の花形  
夜具地と丹前は殊に高尚な新製品各種  
原料は日々昇騰して参りました幸に格安値品豊富に仕入りました  
是非御来店の上の御批評御買上の程願申上  
ます

新發賣 貝焼罐詰  
美味 鯉鹽から  
當店特製 節  
**魚問屋**  
賀志盛榮  
平四丁目 (電話二一三)